

令和6年度第1回 静岡市農業振興協議会会議録

- 1 日 時 令和6年9月13日（金） 13時30分～15時00分
- 2 場 所 静岡市役所清水庁舎 3階 313会議室
- 3 出席者 (委 員)
森田会長、石切山副会長、三津山副会長、小田巻委員、
杉山委員、竹内委員、徳田委員、中尾委員
(事務局)
大村農林水産統括監、太田農林水産部長、
加藤中山間地振興担当部長、花村農業政策課長、
遠藤農地利用課長、石田農地整備課長、岡本中山間地振興課長、
石川お茶のまち推進担当課長、石川課長補佐、水嶋参事兼係長、
宇佐美係長、永野主任主事、岡部主任主事
- 4 傍 聴 者 0人
- 5 次 第
(1) 開会
(2) 委嘱状の交付
(3) 会長あいさつ
(4) 議事
第2次静岡市農業振興計画進行管理
① 令和5年度 of 取組実績について
② 令和6年度 of 取組状況等について
③ 令和7年度 of 取組予定について
(5) その他報告事項
(6) 閉会
- 6 会議内容
○ 開会 会議成立の報告（委員9名中8名出席により、会議は成立）

(事務局)

「①令和5年度 of 取組実績について」を資料1・2により説明

(森田会長)

事務局からの説明に対して、質問等がありましたらお願いします。

(三津山副会長)

4 ページの資料 1、施策 1 の 2 の成果指標の首都圏認知度について、指標を再設定するとのことだが、そもそも誰に対してどのような調査を行う予定でしたか。

(事務局)

首都圏居住者を対象に、静岡市のことをいくつか質問する項目の一つとして、本市の農産物の認知度調査を行う予定でした。令和 4 年度までは継続的に調査していましたが、令和 5 年度から調査内容を改めたことに伴い、調査を実施しておりません。今後、成果指標の再設定に向け、検討を進めます。

(三津山副会長)

成果指標設定は非常に難しいところがあると思いますので、検討を重ねてください。

(森田会長)

成果指標の新たな案については、次回以降に提案をお願いします。他に意見等ありますか。

(中尾委員)

資料 1 の左下、取組の方向性とありますが、全体計画と取組の方向性にどういう関係性がありますか。なぜ聞いているのかというと、資料 4 にこの取組の方向性に対する具体的な取組がありますが、計画への位置付けがよくわからないので教えてください。

(事務局)

取組の方向性は、昨年度取組を進める中で、具体的になった事項のことです。計画の補足という位置付けです。

(中尾委員)

それだと、取組の方向性という表現は少し誤解が生じると思うので、重点施策などの表現が適当だと思います。あと、指標について、総括成果指標の新規就農者数が目標を上回っていますが、上回った指標の今後の方針を教えてください。

(事務局)

第 2 次農業振興計画は 8 カ年計画で、中間年の令和 8 年度に中間見直しを行います。指標の見直しは基本的に中間見直し時に行う予定ですが、適宜必要なタイミングで見直しを図っていきたいと考えています。

(森田会長)

指標の中には 1 年毎に目標を設定しているものと、年々累積していき最終年に目標が達成するものなどがありますので、それぞれの指標内容を見ながら進捗管理をお願い

いしたいと思います。また、資料1の左上、「静岡市の経営耕地面積」のY軸の数字が消えていますので、修正をお願いします。

その他、私から気になるところを何点かお伝えします。協議会当日に資料の2-2などの追加配付はありがたいのですが、なるべく資料は事前に配付していただき、各委員が内容を確認する時間をいただければと思います。

環境負荷軽減の取組ですが、県への協力をお願いにもなりますが、一般の栽培方式と比べ収量が減少するため営農意欲が下がるとの記載がありますが、基本的にそういうことで作っていないと思いますので、県の研究所等を通じて技術的な支援等をお願いしたいと思います。

3の地域力の1オクシズ地域における野生鳥獣被害防除面積について、1年目で目標面積の半分まで進んだというのはニーズに応えた事業であるといえると思います。引き続き事業を進めていただくとともに、支援メニューがいくつかある事業だと思いますので、事業効果がどれだけ上がっているのかの検証もお願いしたいと思います。

令和5年度の新規就農者が26経営体と良かったと思いますので引き続きお願いしたいのと、毎年数に波があると思いますので、26経営体の中身についても分析をお願いしたいと思います。どんな作物が増えているのかなど、分析することは今後の市の農業にとって非常に大事になると思います。

4ページの資料1の提案力の3市内産農産物を意識して購入している市民の割合について、特に野菜の割合が少ないという結果でした。意識はしているけど、売り場に並んでいなかったから買えなかったという問題があると思います。他産地のものが多くて、県内や市内産のものを探しても買えない場合もありますので、そのようなことも考慮した聞き方があると思います。消費者が意識することが大事なのか、購入することが大事なのか。その辺を整理していただければと思います。

(事務局)

貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後の参考といたします。

(森田会長)

では、次の議題に移ります。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

「②令和6年度の取組状況等について」「③令和7年度の取組予定について」を資料3・4により説明

(森田会長)

事務局からの説明に対して、質問等がありましたらお願いします。

(杉山委員)

農家の現状を申しますと、中小農家が多い中、高齢化が進み、経営が非常に難しい状態にあります。中小農家を守っていかなければ、農家はどんどん減ってしまいます。

清水区では、以前から畑地総合事業により農地の基盤整備が進み、新規就農者の確保に繋がっています。引き続き、基盤整備を進めるとともに、中小農家が持続的に農業を続けることができる環境を整えていただきたいと思います。

（事務局）

17 ページの資料 3－1 をご覧ください。中小農家対象の事業は、中段、産地力の登載事業にある認定農業者・新規就農者育成支援事業や農業収入保険事業、多様な担い手育成事業などの助成制度を設けており、活用いただいております。今後はこれら既存制度に加え、国や県の動向を注視しながら、必要な制度を検討していきます。

（森田会長）

現在策定中の地域計画のヒアリングの中で農業者の高齢化は問題に挙がってくると思いますので、市や県の方々は地域の方とよく話をして、政策に反映していただきたいと思います。

（竹内委員）

輸出拡大と有機農業の推進を進めることはとても良いと思います。海外では健康志向が高まり、お茶のニーズも高まっているので、市場を広げることになると思います。また、有機農産物は手間などが掛かるので価格が高くなることは仕方がない面もあり、意識の醸成には時間がかかると思いますが、からだに良かったり、環境負荷が少なかったりするので、これからの農業には大事だと思います。

（徳田委員）

現状お茶の輸出は伸びていますが、各国の輸入基準を満たす必要があったり、農薬の飛散（ドリフト）の問題や慣行栽培から有機栽培への転換期間が数年あったりなど有機農業の推進にはいくつか問題があると思います。また、アンケート調査では、認知度がまだまだであったり、お店であまり取り扱っていなかったりなどもあります。そのような中、有機農業をどのような方針で広げていくかを教えてください。

（事務局）

有機農業の拡大については、既存の有機農産物の販売店だけですと販路に限りがありますので、一つの施策として学校給食への導入を予定しています。それから、一般の方には買っていただくため、スーパーマーケット等の小売業者に現状・課題などのヒアリングも行っています。

有機茶については、昨年度から4つのほ場で、静岡市型の有機栽培マニュアル作成などに向けて実証を行っています。今年度は土壌分析等を行い、ブラッシュアップを行いつつ、農協などの協力も得ながら有機を進めると同時に、販路開拓としての輸出も進めていきたいと思っています。

（徳田委員）

輸出を進めていただければお茶農家の所得向上にもつながると思います。また、現在は農家より茶商の方が輸出を進めていると思いますが、状況はいかがでしょうか。

（事務局）

茶商の中には、抹茶などを大きなロットで輸出しているところもあると聞いています。市としては、他市産ではなく静岡市産のお茶を市内の茶業者が輸出するためのプラットフォームを作り、海外販路獲得に向けて支援をしているところです。

（森田会長）

有機や輸出など、新規事業の成果が出るのには時間がかかり難しいこともあります。難しいと言っていたら競争にならないので、1日も早く効果がでるよう進めていただきたいと思います。また、例えば有機栽培マニュアルなどは静岡県で既に作成しており、あえて静岡市型にこだわるのであれば、それは価格に転嫁できるように進めていただきたいし、出口を求めてほしいと思います。例えば輸出関係事業は、18ページの資料の3-2のNo3.4の輸出拡大支援プラットフォーム構築事業とお茶の輸出拡大支援事業であり、5市2町や市単独で事業を行う中で、取組の重複を避けるなど予算を有効に使っていただきたいと思います。

（石切山副会長）

組合員と話をする、一番の課題は雇用と答える方が多いです。今後の担い手確保を考えますと、生産作物や研修先、農地の問題などいくつもハードルがある中で、新たに創設された公社などと一体になって進め、担い手への農地集積・新規就農者の確保につなげていただきたいと思います。

（森田会長）

それぞれのステージ、レベルに合わせた事業を体系的に進めることが、目的を果たすためには必要であるとの意見だと思いますので、よろしくお願いします。

（中尾委員）

一つは要望です。18ページの資料3-2に今年度の重点施策がありますが、記載内容は事業概要であるため、より具体的な取組を記載し、その内容や進捗などを踏まえ、次年度の取組に結びつくような資料づくりにしていただきたいと思います。今年度第2回目の協議会は、年度末頃の開催だと思いますので、その時には今年度と次年度の取組の結びつきが分かるようにしていただきたいと思います。

次に、19ページの資料4の真ん中、担い手への農地集約の推進には、もう少し具体的な施策の記載をお願いしたいです。公社が立ち上がったばかりで、これから実績を積み上げていくところだと思いますが、国や県では関連施策として省力化技術の向上やスマート農業の推進の取組を進めていますので、それを取り入れてもよいと思います。

また、アンケート調査の間7「農業をやってみたいと思いますか。」について、50代

以下の年代毎の方たちの3割程が農業をやってみたいと回答しています。3割は結構多いという印象で、体験農園や市民農園など農業に触れる機会を多く作ることで、就農につなげるだけでなく、農業の理解につながり、国が掲げる持続可能な価格形勢などの醸成につながると思いますので、今後の施策に活かしていただきたいと思っています。

（森田会長）

私も資料を見て、なぜこれらの事業が重点事業なのか、これまでも取り組んできた事業も多い中で、何が問題・課題でそれらを解決するために次年度ここを重点的に実施するなど事業の流れが見え、何ができていて・できていないのかなど、農業政策の全体が見えるものを示していただくと理解しやすくなりますので、次回以降にお願いしたいと思います。

（竹内委員）

静岡市の農地は平坦なところが少なく山間地が多い中、良質なお茶も多いことから、生産量ではなく質をアピールしてほしいです。また、日本は食料自給率が低いと言われていて、これから上げていく必要があると思います。荒地が増えているようなので、そこを活用することも一つだと思いますが、何か支援策などがありますか。

（事務局）

毎年、農業委員会では農地利用調査を行っており、その中で耕作されていない農地があればそこを抽出して、その所有者の方に意向確認を行っています。もし農地を貸したいのであれば、借りたい方に斡旋するなどし、耕作が継続するような取組を行っていますが、農家数が減少する中、新しい方に耕作をしていただくのが難しいという状況になっていますので、次年度以降工夫しながら取り組んでいきたいと思っています。

（竹内委員）

以前、援農ボランティア事業が行われていましたが、継続していますか。

（事務局）

援農ボランティアについては、継続して行っており、受け入れ農家や農業体験をしたい一般の方の双方から好評を得ています。

（石切山副会長）

20 ページの参考資料として、基本法の改正の資料があり、その中に食料の合理的な価格の形成とあります。いいものを作るにはコストもかかってくるため、消費者の方にも理解いただき、持続可能な農業に協力をお願いしたいと思います。

（森田会長）

それではその他質問等もないようですので、第1回農業振興協議会を閉会します。